

コースコード: DO-DOFD

税込価格:118,800円(税抜価格:108,000円)

日数:2日間

トレーニング内容

組織はそれぞれの市場で新規参入者に直面しているため、競争力を維持し、年に1、2回ではなく定期的に新製品や更新製品をリリースする必要があります。DevOps Foundationコースでは、DevOps の主要な用語を基本的に理解することで、全員が同じ言葉で会話できるようにし、組織の成功をサポートするためのDevOpsのメリットを説明します。

このコースには、ING Bank、Ticketmaster、Capital One、Alaska Air、Target、Fannie Mae、Societe Generale、Disneyなど、業績の高い組織で実際に行われているケーススタディを含む、DevOpsコミュニティの最新の考え方、原則、プラクティスが含まれており、マルチメディアやインタラクティブな演習を活用することで、Gene KimによるPhoenix

Projectで説明されている「3つの道」や、「State of DevOps」や「DevOps Institute Upskilling」の最新レポートなど、学習体験を実践に活かすことができます。

これは、ソフトウェア開発者とIT運用の専門家の間のワークフローを改善するために、コミュニケーション、コラボレーション、統合、および自動化を重視する文化的・専門的な動きです。

本コースは幅広い層を対象としており、ビジネスサイドの方はマイクロサービスやコンテナについて理解することができます。技術者側は、デジタル・トランスフォーメーション・イニシアチブを支援するために、コスト削減(全体的なITコストを15~25%削減)、品質向上(変更失敗率を50~70%削減)、アジリティ(プロビジョニングとデプロイメントの時間を最大90%削減)を実現し、ビジネス目標をサポートするDevOpsのビジネス価値について理解することができます。

ユニークでエキサイティングなエクササイズは、コースで取り上げられたコンセプトを適用するために使用され、クラスの後に使用するためのサンプルドキュメント、テンプレート、ツール、およびテクニックが提供されます。

このコースは、DevOps Foundation認定試験の合格を目指す学習者を対象としています。

ここに注目!!

デジタルトランスフォーメーションをサポートするための基礎レベルのコースで、コストを削減しながらアジリティ、品質、顧客サービスを向上させる組織的な取り組みをサポートするためのDevOpsについて学び、ケーススタディ、実際の成功事例、ビジネスの成功を実証するための指標を活用します。

対象回 (2025年11月20~21日)限定で<mark>受講料が最大50%OFF</mark>となるキャンペーンを実施中! 詳細は <u>こちら</u>

ワンポイントアドバイス

受講料には、認定資格試験バウチャー費用も含まれております(試験バウチャー単体でのお申し込みはできません)。

本コースは、「DevOps Foundation」試験の内容を網羅しています。 試験バウチャーの有効期限はコース開始日から6ヶ月を保証します。



再受験費用を含んだTake²

オプションをつけることも可能です。Take²オプションについて詳しくは<u>こちら</u>をご覧ください。

受講対象者

このコースの受講対象者は次の通りです。

DevOps Foundationコースの対象者は、以下のようなマネジメント、オペレーション、開発者、QAやテストの専門家です。

- ・IT開発、IT運用、ITサービスマネジメントに携わる方
- ・DevOpsの原則の理解を必要とする人
- ・アジャイル・サービス・デザイン環境で働く、またはこれから働こうとしているITプロフェッショナル

前提条件

このコースを受講する前に受講者が習得しておく必要がある知識およびスキルは次のとおりです。

IT用語に精通していること、IT関連の職務経験があることが望ましい。

目的

このコースを修了すると次のことができるようになります。

DevOps Foundationの学習目標には、以下の理解が含まれています。

DevOpsの目的と用語

ビジネスとITへのメリット

継続的インテグレーション、継続的デリバリー、テスト、セキュリティ、「3つの道」などの原則と実践

DevOpsとアジャイル、リーン、ITSMとの関係

ワークフロー、コミュニケーション、フィードバックループの改善

デプロイメントパイプラインやDevOpsツールチェーンを含む自動化の実践

エンタープライズ向けにDevOpsを拡張する

重要成功要因と重要業績評価指標

事例(ケースストーリー)

アウトライン

- 1. DevOpsの探求
- DevOpsの定義
- なぜDevOpsが重要なのか

Top Out
Human Capital

- ビジネスの視点から
- ITの視点から
- 2. DevOpsのコアとなる原則
- 3つの道
- 制約条件の理論
- カオスエンジニアリング
- 学習する組織
- 3. 主なDevOps プラクティス
- 継続的テスト
- 継続的インテグレーション、継続的デリバリー、継続的デプロイメント
- サイト・リライアビリティ・エンジニアリング、レジリエンス・エンジニアリング
- DevSecOps
- ChatOps
- カンバン
- 4. ビジネス&テクノロジー・フレームワーク
- アジャイル
- ITSM
- リーン
- 安全文化
- 学習する組織
- 継続的な資金調達
- 5. カルチャー、ビヘイビア、オペレーティング・モデル
- 文化の定義
- 文化的負債
- 行動モデル
- 組織モデル
- 6. DevOpsツールチェーンの自動化と設計
- CI/CD
- コードとしてのインフラストラクチャ
- クラウド
- コンテナ&マイクロサービス
- 機械学習
- DevOpsツールチェーン
- 7. 計測、測定、報告
- 計測の重要性
- DevOpsメトリクス
- ・スピード/スループット/テンポ
- ・品質
- ・安定性
- ・文化
- リードタイム/サイクルタイムの変更
- バリュー・ドリブンなメトリクス
- 8. 共有、シャドウイング、進化
- DevOps Days
- 企業におけるDevOps
- 役割
- DevOpsリーダーシップ
- 組織的考察
- 作業の開始
- 課題、リスク、重要な成功要因

